

男女共同参画と D&I の推進 ～日本技術士会男女共同参画推進委員会の活動～

公益社団法人 日本技術士会男女共同参画推進委員会 正会員 ○飯島 玲子
公益社団法人 日本技術士会男女共同参画推進委員会 非会員 石田 佳子
公益社団法人 日本技術士会男女共同参画推進委員会 非会員 笹尾 圭哉子

1 委員会の概要

日本技術士会における男女共同参画推進委員会は、科学技術による豊かな社会の形成のためには女性の活躍が必須として 2011 年 5 月に設立された。現在の構成員は委員 18 名、委員補佐 9 名である。

活動の目的は、科学技術分野における男女共同参画推進の支援、科学技術系人材としての女性技術者のキャリア形成支援、ロールモデルとしての女性技術士の広報、各団体との連携による男女共同参画の推進支援の強化である。女性技術者のキャリア支援を中心として活動してきたが、2017 年度からはこれまでの活動の蓄積を活かし、D&I (Diversity & Inclusion の略) を意識した活動を展開している。

2 委員会活動の概要

委員会活動は、大きく以下の 4 つから成る。

1 教育機関（大学、高等専門学校等）との連携の下での女性技術士及び女性会員の増加に向けた活動

- ①技術者・技術士を目指す女子学生・女性への広報・支援として「技術サロン」を開催（詳細は後述）
- ②女子中学生・高校生の理系進路選択に向けた広報・支援

2 女性技術者の技術士取得推進活動

- ①Web サイトによる啓発：委員会の Web サイトに「キャリアモデル 1；会員のキャリアの紹介」と「世界の国々から；男女共同参画に関する世界の人々からのメッセージ」を掲載。
- ②女性技術者のネットワーク構築、活動への協力：技術士全国大会で分科会「女性リーダーの育成と社会的課題」運営（2016 年）、技術士フォーラム「技術者・技術士と男女共同参画社会」を CPD 支援委員会と共同運営（2016 年）等。

3 関係団体との連携・協力

- ①男女共同参画学協会連絡会への加盟
- ②国際会議への参加

4 普及・啓発書籍の作成等

日本技術士会の月刊「技術士」に活躍する女性会員の記事を連載。技術士 CPD 教材「男女共同参画の実践－技術者・技術士の活躍に向けて－」の作成等。

3 女性技術士の現状

2017 年 3 月末現在、技術士資格保持者のうち、技術士会に登録している実人数は 87,630

人で、そのうち女性は 1,498 人である。全体に占める女性割合は漸増傾向にあるものの 1.71%にとどまる。また、技術士の技術部門は 21 部門あるが、土木分野と関わりの強い建設部門は技術士登録数の 45%を占める。このほかにも土木と関わりの強い分野が複数あり、土木界で活躍する技術士の割合は高いと予想する。なお、複数部門への登録者もいるため、登録総数と実人数の合計値は異なる（表 1）。

表 1 技術士の技術部門と人数構成（2017 年 3 月末現在）

登録数計	総数	内女性	実人数計	総数	内女性	女性技術士 1.71%(実人数)
	108,323	1,845		87,630	1,498	
部 門	部門総数	内女性	部 門	部門総数	内女性	
1 機械	5,544	24	11 衛生工学	3,129	47	
2 船舶・海洋	208	0	12 農業	4,825	95	
3 航空・宇宙	204	2	13 森林	1,340	34	
4 電気電子	5,506	10	14 水産	690	18	
5 化学	1,807	10	15 経営工学	1,859	11	
6 繊維	760	12	16 情報工学	2,159	41	
7 金属	1,374	10	17 応用理学	4,371	78	
8 資源工学	476	5	18 生物工学	267	26	
9 建設	48,181	858	19 環境	1,846	206	
10 上下水道	6,887	141	20 原子力・放射線	473	5	
※部門数値は複数登録含む			21 総合技術監理	14,637	212	

キーワード 技術士, 男女共同参画, 女性活躍, ダイバーシティ, インクルージョン

連絡先 〒101-8462 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地

パシフィックコンサルタンツ株式会社 D&I 推進室 飯島 TEL 03-6777-3022

4 技術サロン

教育機関（大学、高等専門学校等）の技術者をめざす女子学生、若手女性技術者に向けた懇話会「技術サロン」を年4回程度、2018年3月までに37回開催した。地域本部でのWeb中継も実施している。プログラムは、自己紹介カードの記入、アイスブレイク、技術士および技術士制度についての概要説明、お茶とお菓子を楽しみながらのフリーディスカッションである。フリーディスカッションの満足度は高く、「期待以上」と「ほぼ期待どおり」を合わせて9割を超える。

参加者の構成変化を見ると、当初は学生が多数を占めていたが、2012年から社会人（女性技術者）が増えている。第32回までの参加者は学生44.6%、社会人55.4%であり、時期で区分すると前半（1～14回）は学生74.6%、社会人25.4%、後半（15～32回）は学生22.2%、社会人77.8%と構成比が逆転している。

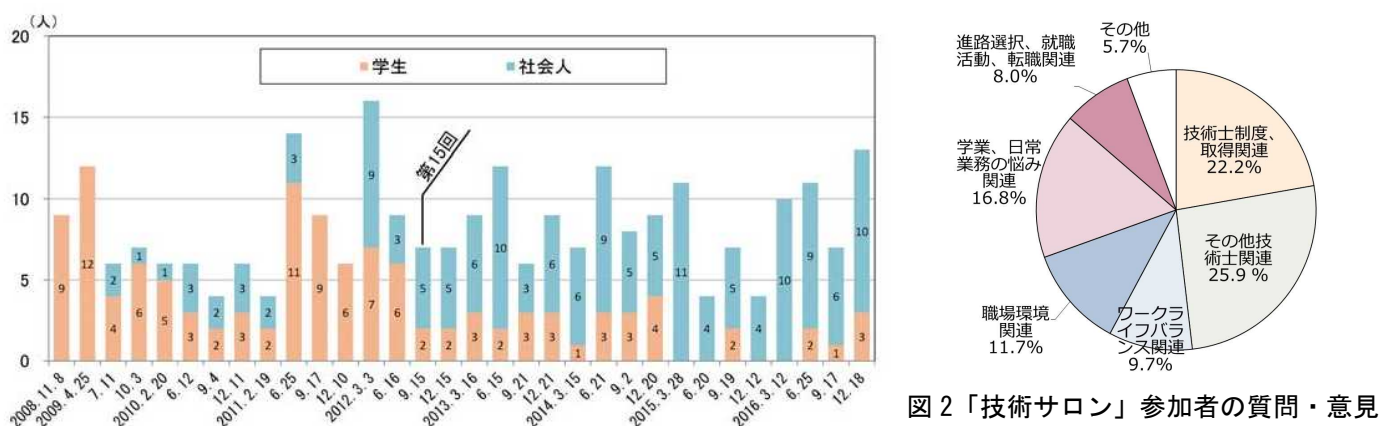


図1「技術サロン」参加者の構成変化

参加者の質問・意見は、技術士に関するものが約半数を占める。次いで、学業や日常業務の悩み、職場環境関連が合わせて約3割、WLBや進路・就職に関するものが各1割となっている（図2）。具体的には「女性技術者から直接話しを聞けてよかった」「今後のキャリアプランの参考になった」「悩みを共有できてよかった」などの声がある。また、「現場や講習会へ行かせてもらえない、セクハラがある」といった悩みには、その場で当委員会の技術士が助言している。

2015年には第25回までの開催概要と参加者の声の概要を取りまとめた「技術サロン報告書」を発行し、その中で「女性技術者育成への提言」を発信した（図3）。女性技術者育成の参考にしていただきたい。

5 今後のD&Iの取組み

前出のように当委員会は、これまで女子学生や若手女性技術者を対象とした活動を中心に展開してきた。その結果、技術サロンの参加者満足度は高く、ロールモデル事例も蓄積され、外部団体との連携も進むなど一定の成果が得られている。このため、活動対象・内容を拡大し、また、外部に向けた情報発信をより充実させるため、D&I小委員会を設置した。D&Iとは、性別に限らず、年齢、価値観、スキルなど多様な違いを尊重、受容し、活かすことで組織の生産性を高めるマネジメントである。

活動開始にあたり、委員を中心にしたD&I学習会を開催した。2018年5月には『技術者と働き方改革』フォーラム ～イクボスによる多様な人材のマネジメント～を開催予定である。技術士には経営者や管理職など技術者のリーダーとして活躍する者も多く、技術士がD&Iを意識するのは大変意義深い。関連学協会とも連携しながら、多様な技術者が活躍できる社会をめざし、D&Iの活動を進めたい。

参考文献 公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会：技術サロン報告書及び委員会活動報告資料

－女性技術者育成への提言－

1. 教育機関においては、女性の職域の多様性を紹介することが重要である。
2. 女性は結婚、出産等のイベント年齢をあらかじめ特定できないため、一律ではなく個人に即したロードマップが有効である。
3. 国の数値目標である「2020年までに指導的立場の女性比率30%」を視野に入れたロードマップも必要である。
4. 女性の力を最大限伸ばすためには、所属長や先輩は、良き理解者・相談相手となるべきである。
5. 業種・業界の枠を超えた取り組みが必要であり、多くのロールモデルや導入した制度などの情報を共有し、幅広い活動を展開、社会全体で意識を醸成すべきである。

図3 女性技術者育成への提言